

園長だより「負けたことに負けない」 第14号

園庭のサクラの花が咲いています。以前は入園式・入学式の頃に咲いているというのが普通だったのですが、最近では3月下旬に満開というのも珍しくなくなってきましたね。地球温暖化の影響もあるのでしょうか。少し心配ですね。

さて、この1か月間は日本中で「侍ジャパン」一色に染まりました。普段は野球に興味を示さない人も手に汗を握って「侍ジャパン」を応援しました。タイガースに全く興味のない私の嫁もその一人でした。結果的には皆さんがご存じのように、決勝でアメリカと戦い、「侍ジャパン」は見事に世界一になりました。一次リーグから無敗の完全優勝。野球は筋書きのないドラマと言われますが、苦しい状況の中、筋書きがあるかのようにドラマチックに勝ち続ける「侍ジャパン」の姿に胸を熱くした人も少なくないと思います。

この大会で「侍ジャパン」というチーム、そして選手たちに世界中から多くの賛辞が寄せられています。相手チームをリスペクトする姿、故障で離脱した選手のユニフォームをベンチに掲げる一体感、ゲーム後にごみ一つ落ちていないベンチやロッカールームなど、数えきれません。優勝したことはもちろん嬉しいのですが、このような形で「侍ジャパン」が評価されていることはとても誇りに思えます。

ただ、勝者がいれば敗者がいます。私は残念ながら負けてしまったチームもさすがに国を代表する選手たちが集まったチームだなと感心する場面を多く見る事ができました。この大会にかける思いはどのチームも「侍ジャパン」と同じだったはずですが、でも、力及ばず負けてしまった時の気持ちは察するに余りあります。でも、今大会のどのチームも負けた後の姿が美しかった。「負けたことに負けない」ということですね。

これは生きていく上でもとても大切なことだと思っています。自分の想像していた結果が出なかった。自分の思い通りにいかなかった。そんな状況の中でどのような気持ち、態度で過ごすことができるか。自棄になったり、素直でなくなったり、あるいは人に当たったりすることは簡単ですが、そこでその人の品格というものが試されることになるのではないのでしょうか。

子ども達の世界でも同じかもしれません。子ども達は自分の思い通りにいかない時に泣いたり、癇癪を起こしたり、相手を噛んだり、叩いたりするものです。当たり前のことです。でも、子ども達は少しずつ、少しずつ思い通りにいかない時も我慢・辛抱ができるようになっていきます。これは保育園・幼稚園・小学校で手に入れる大切な学び、見えない学力（点数などで表すことのできない学力）の一つです。九九も大切です。漢字も大切です。見える学力の大切さは十分わかった上であえて言わせていただきます。城東ちどり保育園の子ども達に思い通りに行かない時に我慢・辛抱ができる強さや言葉遣い・服装・靴などを整える意識などを年齢や成長に応じて身に付けさせることは極めて重要だと思っています。これからも引き続き城東ちどり保育園の保育・教育にご理解ご協力をお願いいたします。